

群 教 ゼ	G10- 01
	平 15.213 集

# 互いに励まし合い、高め合おうとする心情を 育てる道徳指導の工夫

- 陸上記録会や合唱コンクールへの取り組みと関連させて -

特別研修員 村松 昭秀

## 研究の概要

本研究は、道徳の授業を学校行事と関連させて、互いに励まし合い、高め合おうとする心情を育てる道徳指導の工夫について、実践的に研究したものである。具体的には、道徳1での友達と協力して物事を行う素晴らしさについてとらえる学習を陸上記録会につなげる。その体験を道徳2に生かし、真の友情について学ぶ。さらに、合唱コンクールに向けて友達と共に努力し、向上し合う取り組みを道徳3につなげる、一連の研究を行った。

【キーワード：道徳 中学校 励まし合い 高め合い 学校行事】

## 主題設定の理由

我々の日々の生活をより良いものとしていくには、自分以外の人との関わりが大切である。つまり、より良い他との関係づくりが必要となってくる。人との関係づくりの基本となるのが学校での友人関係づくりである。中学校の三年間は、相手の成長を願い、励ましたり、忠告を与えたりという、思いやりのある言葉を言い合えるという真の友情について理解し、将来に向け、人との付き合いを円滑に行えるよう望ましい人間関係づくりについて学ぶ時期でもある。しかし、中学生のこの時期は、感情の行き違いや、自分が傷つくことを恐れ、至らないところを相手に指摘しなければならない場面でもあえて言葉を発しなかったり同調したりすることがある。これではお互いの成長はあり得ないし、真の友情を獲得することも、望ましい人間関係を確立することもできない。

本学級(中学校1年 男子16名 女子23名 計39名)の生徒には、軽はずみな言動や行動からお互いの信頼関係を損ねる者や、気の合う仲間グループを作り、友人関係を広げられない者もいる。友人に悩み事を相談しても、誤解が基で、友人関係が悪くなることもある。また、生徒同士の人間関係が十分に育っていないため、お互いが牽制し合ったり、注意すべきところで適切な言葉掛けができな場面も見られる。このように、生徒たちは望ましい人間関係についての理解が十分でないことや、互いに励まし合い、高め合っている意識も弱いことが見受けられる。

一方で、本学級の生徒は学校行事へ熱心に取り組める。5月の球技大会では、目標を目指し互いが声を掛け合い、応援し合うことができた。そして、クラス全員で力を合わせて最後まで試合に取り組めたという充実感や友達と励まし合いながらプレーするという楽しさを実感することができた。このことから、行事と関連させて道徳の授業を行うことは生徒の互いに励まし合い高め合おうとする心情を育てることに役立つと考える。

本校では、2学期に陸上記録会と合唱コンクールがある。生徒は、行事の成功や目標達成に向けての活動の中で、クラス全体で努力する楽しさを知り、互いの良さを認め、改善すべき点を指摘していく。そして、行事を振り返ることで互いに高め合っている姿に気づく。また、行事に関わる感想文や読み物資料、ビデオなどを道徳の授業の中に用いることで、生徒はより深く自分を見つめることができると考える。

このように、学校行事と関連付けて道徳の授業を行うことで、真の友情について考え、互いに励

まし合い、高め合っていこうとする心情を育てていくことができると考え本主題を設定した。

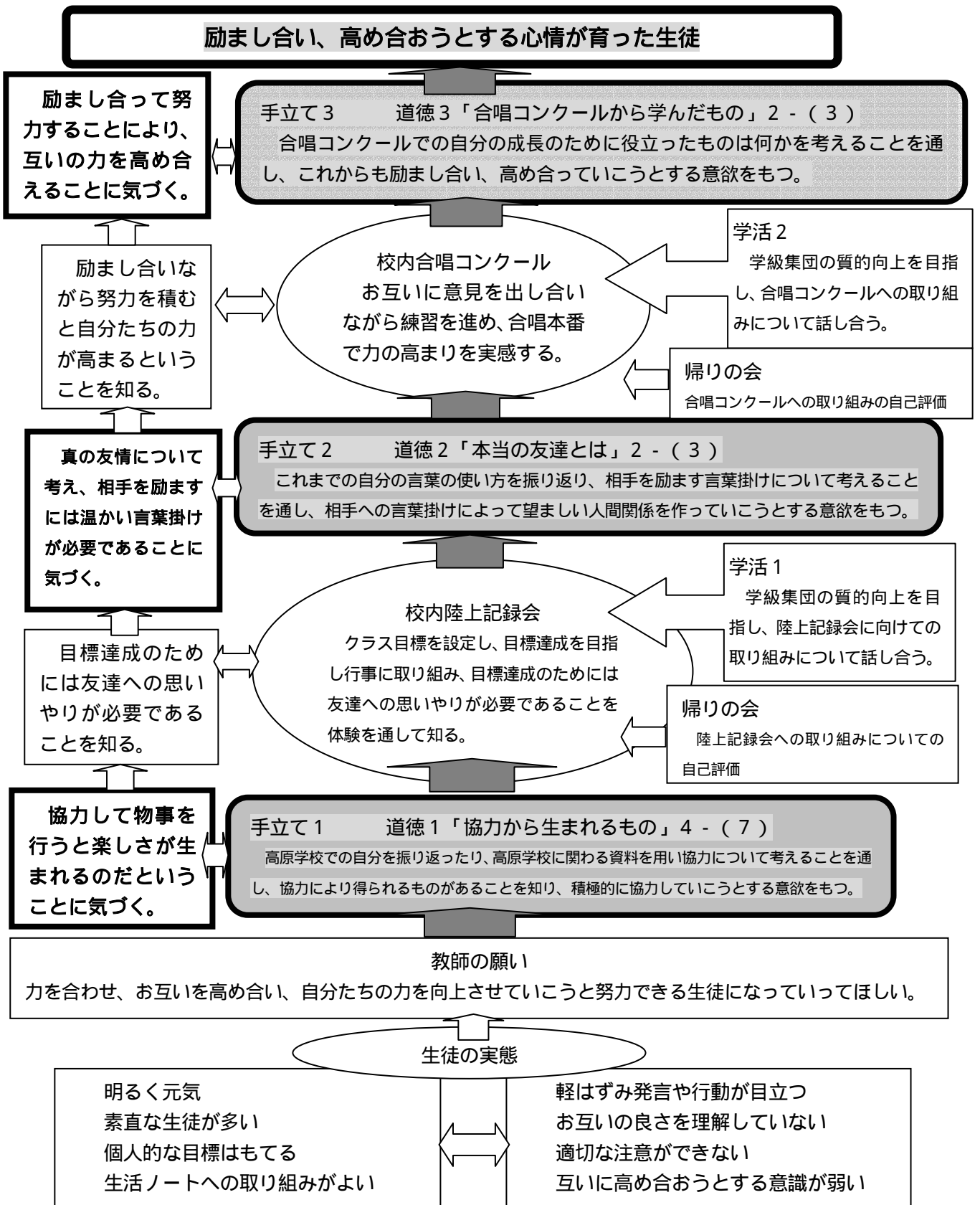


図1 全体構想図

## 研究のねらい

道徳「真の友情」＜2 - (3)＞において、道徳の時間を学校行事（陸上記録会、合唱コンクール）と関連付けて行っていくことを通して、互いに励まし合い高め合っていこうとする心情が育つことを、実践を通して明らかにしていく。

## 研究の見通し

次の見通し1～3の道徳の授業や行事に取り組むことで、互いに励まし合い高め合っていこうとする心情が育っていくであろう。

- 1 道徳1「協力から生まれるもの」において、協力に関わるアンケート結果やそれまでに行われた行事（高原学校）の感想文を用いることにより、自分たちは今までにも友達と協力して物事に取り組んできたことを知る。それらの取り組みを通してどのような気持ちをもてたかを考えることで、力を合わせて物事に取り組むことから生まれる成果や楽しさを知り、積極的に友達と協力しようとする意欲をもてるであろう。
- 2 陸上記録会でクラスの目標を達成させるためには心から友達を思いやる必要があるということに気づく体験をした後、道徳2「本当の友達とは」を行う。授業では、友達同士の関係について書かれた資料を用いて日常使っている言葉が相手や自分に与える心情の変化について考える。この学習から、真の友情について理解し、個と集団の質の向上を目指し、相手への思いやりのある言葉掛けや発言をしようという気持ちをもつことができるであろう。
- 3 合唱コンクール後に道徳3「合唱コンクールから学んだこと」を行い、練習を通して互いに意見を出したり声を掛け合いながら進めてきた取り組みを振り返る。次に、本番での合唱の録音や音楽担当教師・保護者からのメッセージを聞き、自分たちの以前より成長した姿を実感する。そして、合唱が上達した理由について、これから自分たちがしていかなければならないことや心がけていくべきことなどについて意見交換を行う。これらの学習を通し、一つの目標に向けて皆が気持ちと力を合わせて取り組むことにより、一人以上の力を出せることに気づき、これからも互いに励まし合い、高め合っていこうとする心情が育っていくであろう。

## 研究の内容

### 1 基本的な考え

(1) 互いに励まし合い、高め合おうとする心情が育った生徒とは

ア 力を合わせて取り組むことの楽しさやそこから生まれる成果を知り、積極的に友達と協力できる。

イ 真の友情について理解し、互いの成長を目指して、相手への思いやりのある言葉掛けや発言ができる。

ウ 一つの目標に向けて皆が気持ちと力を合わせて取り組むことにより、一人以上の力を出せることに気づき、意欲的に励まし合い高め合っていこうと努力できる。

(2) 行事との関連と道徳授業の工夫

学校行事と関連付けて道徳の授業を行うことで、励まし合い、高め合おうとする心情が育つと考え、道徳1 陸上記録会 道徳2 合唱コンクール 道徳3 という学習過程を考えた。授業で扱う価値について生徒が自分の体験と照らし合わせながら考えていくことができるよう、学校行事の前後で主題に関わる道徳の授業を行う。道徳の授業では、補助資料を用い、生徒が共感し、行事での

体験を振り返りながら考えられるようにする。行事前後のアンケート結果やビデオ、生徒や保護者の感想文などを取り入れ、生徒が興味をもって授業に臨める工夫をしていく。また、生徒が互いの考えを知り、認め、自分に役立てていくなど、授業の中でも互いを励まし合い高め合っていくとする場面を設定できるよう、生徒が答え易い発問を工夫したり、班での話し合いやグループエンカウンターなどを取り入れたりとしていく。その際、ワークシートに段階的に記述欄を設けるなどして、生徒が自分の考えを整理しやすいようにする。

### (3) 陸上記録会について

陸上記録会では個人種目の他に、クラスごとの入場行進や男女別全員リレーを行う。個人種目では、一生懸命に競技している友達の姿を見ることで友達もっている良さに気づくことができる。また、友達からの応援を受けることで友達から励まされる嬉しさを知ることができる。入場行進や全員リレーでは、「きれいな行進をしよう」「目標タイムを にしよう」等の目標を立て、その目標を達成させるには友達同士がお互いを助け合いながら協力することが必要であることを体験を通して知ることができる。この体験を次の道徳2に生かしていきたい。

### (4) 合唱コンクールについて

良い合唱を作り上げるためにクラス全体の協力が必要である。つまり、互いの良い部分を誉め合ったり、お互いの改善点を指摘し合ったりすることが大切である。また、それらの指摘を素直に受け入れ、自分に役立てていこうとする心が不可欠である。そして、お互いを思いやりながら言葉掛けをし、励まし合って練習に取り組み、目標に向かって努力をしていく。このように、改善を加えながら作っている自分たちの合唱を聞くことで、自分たちの力が高まっていることに気付くことができるであろう。この気づきを道徳3に生かしていきたい。

## 2 実践の概要および結果と考察

(1) 協力して物事に取り組むことから生まれる成果や楽しさを知り、積極的に友達と協力しようとする意欲をもてたか。(見通し1)

### ア 実践の概要

導入で、中学校入学後に友達と協力した体験を考え、学校行事での協力の場面を振り返ることで、誰もが友達と無意識に協力していたことに気づいた。次に、高原学校と関連させた自作資料を読み進めて主人公の心情の変化について考えることから、協力により充実感や満足感が得られることを知った。そして、自分自身の協力した体験とそれによって得たものについての意見交換を行い、これから自分はどのようにいったらいいか考えることで積極的に協力していこうとする気持ちを高めていった。

### イ 結果と考察

導入で「協力することが好きか」の問いには39人中36人の生徒が「好き」と答えた。「協力のイメージは」の問いにも「助け合い」や「結束」など全員がプラス面のイメージをもっていた。また、「友達と協力して試合に勝って嬉しかった」など、協力して良い思いをしたことがある生徒が23人いた。反対に協力したのに嫌な思いをしたという体験を発表した生徒が3人いた。

次に資料中の主人公の心情の変化をワークシートに整理しながらまとめる活動を取り入れたところ、主人公が感じた感動を全員が理解することができた。これは、生徒が実際に体験した高原学校を資料の題材にしたことで、生徒が自分の体験と重ね合わせて主人公について考えることができたと考えられる。また、主人公が感じた感動に共感し、自分も同じような感動を味わいたいなどの感想をもった生徒がいた。これは、「協力はよいことだ」という授業前の考えが「協力することで満足感や充実感が得られる」という考えに高まったとともに、協力して満足感や充実感を味わっていきたいという気持ちをもてたことを表していると考えられる。

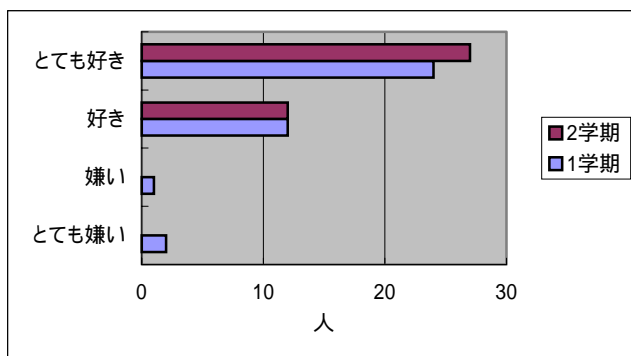
終末では、自分の過去の体験とそれから得たものについての意見交換を行ったことにより、実際に主人公と同じような体験をした友達が感動を得たことを知り、さらに協力への意欲が深まったと考える。このことはワークシートに書かれた記述（資料1）にも表れている。

### 資料1 生徒の感想文

作文を読むまでは「協力なんて適当にすれば何とかなるじゃん」と思ってたけど、読み終わると「ああ、私もこの人と同じだったなあ。」と実感しました。面倒臭くて仕方なかったけど、一生懸命協力すると素晴らしい感動を得ることができます。

私は協力することはどちらかというと好きです。でも、今日の授業で、協力すると感動も味わえるのでいいことだと思いました。

### 資料2「あなたは友達と一緒に目標に向かって努力することが好きですか。」の回答



資料2は1、2学期に行ったアンケート（「あなたは友達と一緒に目標に向かって努力することが好きですか。」）の集計結果と、そのアンケートで1学期に「協力することは嫌い」と回答した生徒の本授業でのワークシートの記述である。

### <1学期に「嫌い」「とても嫌い」と回答した生徒の本授業後の感想文>

初めは協力することはそんなに好きではありませんでした。けど、今日の授業でその気持ち少し変わったと思います。

名前はわからない人の作文を読んで、協力したあとの「楽しさ」と「うれしさ」がこんなに大きいものだわかりました。

協力することの大切さがわかった。

上の資料が示している通り、友達と努力することにマイナスイメージをもっていた生徒が「協力することは大切だ。」などといったプラスイメージをもつことができるようになっている。また、クラス全体でも友達と一緒に努力することに対し1学期以上に前向きになっていることがわかる。

以上のことから、協力して取り組むことから生まれる成果や楽しさを知り、積極的に友達と協力しようとする意欲をもてたといえる。

(2) 真の友情について理解し、個と集団の質の向上を目指し、相手への思いやりのある言葉掛けや発言をしようという考えをもつことができたか。（見通し2）

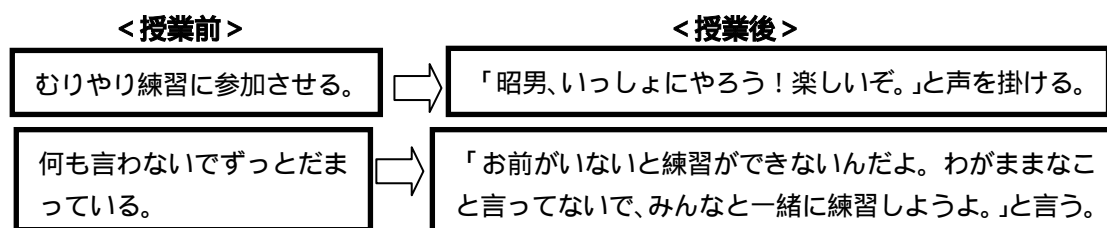
#### ア 実践の概要

導入ではまず、行事に関連付けた自作資料から、行事に向けてのクラス練習になかなか参加できない友達に対し自分ならどうするかを考えた。次に、「言われて嬉しい言葉・嫌な言葉」を出し合うことを通し、自分がこれまで使っていた言葉が相手の心にどんな変化を与えるかに気づいた。展開では、資料中の主人公が思いやりをもって友達に忠告していこうと思った理由について考えることを通し、友達とはどのような存在なのか、友達のためにはどのように言葉を掛けていくべきかを考えた。終末では、導入の資料に戻り、どうすべきかを考えワークシートに記入した。

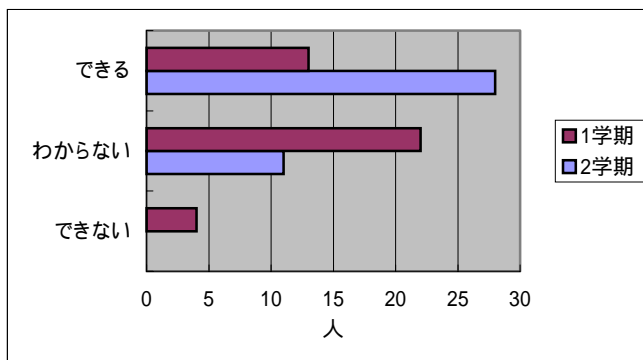
#### イ 結果と考察

導入での「嬉しい言葉と嫌な言葉」では、全員の生徒が「言われて嫌な言葉」を普段の生活の中で言っていることや言われて嫌な思いをしたことがあることが分かった。様々な言葉を出し合い「どんな気持ちになるか」について考えることで、自分がふだん不用意に言葉を使ってきていたことに気づいた。これは授業後の感想文からも読み取ることができる。展開での資料を通して考える時間では、主人公がよりよい友人関係を築くために勇気をもって友達に忠告をしていることや友達からの忠告によって自分自身も成長したことを知ることができ、自分もそのような友人関係を築くために意識して言葉を遣っていかねばならないことに気づくことができた。これは授業中の生徒の発言や授業後の感想文から読み取ることができる。授業の前後で行ったワークシートの記入では資料3のような記述が多く見られた。これらのことから、授業前と授業後の意識の変化を知ることができ、よりよい友人関係を作るために自分も思いやりをもって友達への言葉掛けを行っていこうとする気持ちをもつことができたことが分かる。

### 資料3 生徒のワークシートへの記述



### 資料4 アンケート(「あなたはクラスの友達が良くないことをしているときに注意できますか。')結果



資料4は1、2学期に行ったアンケート(「あなたはクラスの友達が良くないことをしているときに注意できますか。')の集計結果と、そのアンケートで1学期に「注意できない」と回答した生徒の本授業でのワークシートの記述である。

#### <1学期に「できない」と回答した生徒の本授業後のワークシートの記述>

早起きが苦手なら早くねればいい事だし、面倒くさいだろうと思っているけど、楽しいからやってみよう！と言う。	せっかくのクラスメーなんだから、がんばって昭男君もやろうよ！と昭男に言う。
一緒に練習しようよ。と誘う。	自分のためにもなるし、本番で失敗しないし、楽しいからやろうよ。と励ます。

クラス全体を見ると、「できない」と答えた生徒が0人になった。実際の生徒の日常の行動を見てみると必ずしも意識が実践化へつながっているわけではないが、生徒の意識は確実にプラス方向に向かっていると言える。また、1学期に「注意できない」と回答していた4名の生徒もその考えに変化が表れたと言える。実際にこの4名の学級内での様子を観察していると、以前であれば何も言わなかった場面で、個人差こそあれ発言ができるようになってきた。

以上のことから、真の友情について理解し、個と集団の質の向上を目指し、相手への思いやりのある言葉掛けや発言をしようという考えをもつことができたといえる。

(3) 励まし合って努力をすることにより、互いの力を高め合うことができることに気づき、これからも互いに励まし合い高め合っていこうとする心情が育ったか。(見通し3)

#### ア 実践と概要

道徳3では、合唱コンクールで学んだことを話し合った。導入では自分たちが合唱練習に取り組み始めた頃を振り返った。また、音楽担当教諭のビデオでのコメントから自分たちの合唱が初めどんなレベルだったかを客観的に捉えた。展開では、合唱コンクール本番の自分たちの合唱をビデオで見て、自分たちの合唱が上達したことを知り、上達した理由について意見を出し合った。また、保護者に事前に依頼しておいた合唱コンクールを聞いての感想文を読んだり、音楽担当教員のコメントをビデオで視聴したりして、自分たちの成長を確認した。次に、合唱コンクールを通して学んだことについての意見交換を行った。終末では、学んだことを今後どのように役立てていくかを考え、意見を交換した。また、今後の生活で意欲的に励まし合い高め合っていってほしいという願いを込めた担任からの説話を聞いた。

#### イ 結果と考察

導入で行った初期の歌についての意見交換では「へた」「歌になっていなかった」「やる気がなかった」など、合唱が低いレベルだったという考えを全員がもっており、正確に自分たちを振り返ることができていることがわかる。音楽担当からのコメントにも真剣に耳を傾け、うなずいている生徒も多くいた。展開で自分たちの合唱をビデオで見ている様子は真剣そのものであった。本番の歌を聞き、「うまくなった」「よくなった」など自分たちの上達を表す感想を全員がもち、自分たちの力の高まりを実感できた。「何が自分たちの合唱を上達させたのか。」の問いには、音楽的な面の意見の他に、「クラスみんなで努力したから」や「意見を出し合って練習したから」など、集団に目を向けた意見が数多く見られた。また、自分一人ではきっと努力が続かなかったという意見が出され、全員がその意見に賛成した。このことは、集団や友達、励まし合いや高め合いという部分を生徒が意識するようになったことを表している。保護者からの感想文はどれも、生徒たちの努力・本番での合唱を褒め称えるものであり、生徒は自分たちの頑張りが周囲の人に感動を与えるものだったと知ることができた。展開終盤での音楽教諭からのコメントを聞く生徒の表情は嬉しそうで、自分たちの努力が認めてもらえたことの嬉しさを感じているようだった。終末の、学んだことをどのように生かしていくかについての意見交換でも、励まし合いや高め合いという面に目を向けた意見が多く(資料5)、自分の意見を堂々と友達に伝えていた。その態度やワークシートへの記述内容から励まし合い高め合おうとする意欲をもち、それを実践へつなげていこうとする気持ちをもつことができたと考えられる。また、1学期に行ったアンケート(「あなたやクラスは互いに励まし合ったり高め合ったりしていますか。」)で「できていない。」と回答したA男のワークシートへの記述を段階的にまとめたもの(資料6)からも気持ちが高まっていることが分かる。

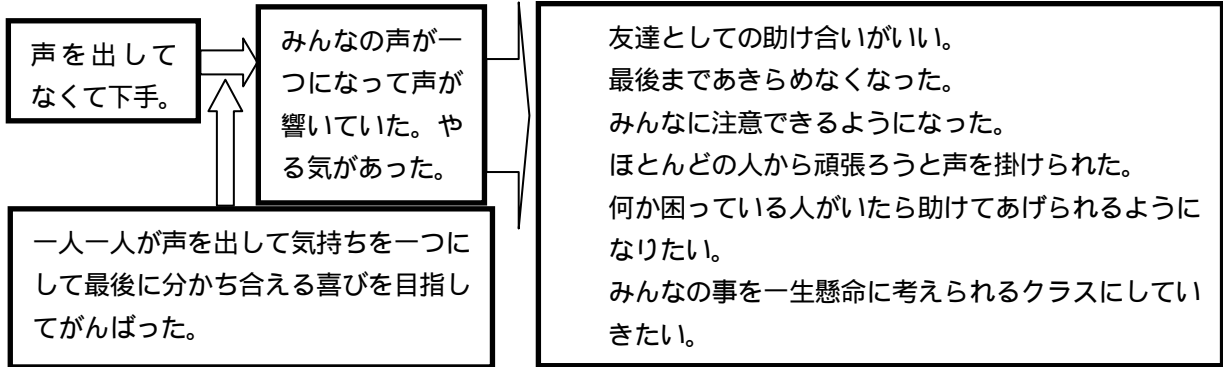
#### 資料5 「学んだことをどのように生かしていくか」の記述

これからもみんなで協力したり、団結したりしたいです。これから先、助け合って生きていきたいです。

みんなで生活している中で、困っている人がいたらみんなで助け合い、そしてみんなで何かをすることの楽しさを見つけたいと思います。みんなで高め合う心のもてるクラスになるといいです。

集団生活の中で生かせるようにしたい。残り4ヶ月の1年1組をもっともっと団結して高めたい。

## 資料6 A男のワークシートへの記述



以上のことから、励まし合って努力をすることにより、互いの力を高め合うことができることに気づき、これからも互いに励まし合っていこうとする心情が育ったといえる。

## 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

道徳1では生徒が一学期に体験した高原学校を題材にした自作資料を用いた。主人公と同様の体験をしていることで生徒は協力から生まれる充実感や満足感について深く考え、積極的に友達と協力していこうとする意欲をもつことができた。生徒の実体験を授業に生かしていくことは生徒が考えを深め今後の活動に向けての意欲をもつために大きく役立つことが分かった。

道徳2では生徒の日常生活によく見られる場面を扱った資料を用いた。生徒に身近な資料を活用したことにより、生徒は登場人物と自分を容易に置き換えて考えることができ、思いやりのある言葉掛けをしていこうとする心情が高まった。

道徳3では感想文・ビデオ・ワークシートを用いた。親からの感想文と合唱のビデオにより、練習の前と後の自分たちの変化を客観的にとらえることができた。ワークシートは生徒が取り組んできた過程を構想的に考えられるように工夫したことにより、授業を進めながら記述していくことで生徒自身も自然と自分たちの意識の高まりを知ることができた。また、これからも互いに励まし合い高め合っていこうとする心情が高まり、今後の自分たちの友達関係をよりよくしていこうとする意識をもつことができた。

学校行事と関連付けて道徳の授業を行うことは、生徒の考えを豊かにし意欲を高めていくために有効であった。また、学級単位で行う学校行事への取り組みと道徳の授業を関連付けていくことは、励まし合い高め合う心の育成に効果があった。

### 2 今後の課題

今後は、生徒が自分の考えや意識の成長を振り返り、気づく場を設けたり、手立てを工夫したりして、互いに励まし合い高め合おうとする意欲をさらに高めて、生徒が実際の生活の中で積極的に行動につなげていけるようにしていきたい。